

情報部

第三課長

特秘收第4709号

昭和十一年十二月七日

東亞局

左

内務大臣潮惠之輔殿
外務大臣有田八郎殿
各府府縣長官殿

宮崎縣知事三島誠也

記録係
本邦内閣外務省係
昭和十一年十二月四日接受

0228

(分類 73.3.02-1)

國際情勢ニ関スル講演會
開催ニ関スル件

日本國際協會宮崎支部ニ在リテハ去ル三日管下宮崎市ニ於テ今協會副會長山川端夫合理事坂西利八郎ノ西氏ヲ招聘シ標記講演會ヲ開催セルガ概要左記

ノ通ニレテ相当感動ヲ與ヘタル模様ニ有之
右及申(通)報候也
記

一日時午三月三日自午後六時半至今丁時半

ニ場所 宮崎市第一小學校講堂

三聽衆 約百五十名

四講演者 並演題

(一) 太平洋會議ニ現レタル各國ノ対日態度

貴族院議員 山川端夫
法学博士

(四) 日支關係ト國民ノ覚悟

貴族院議員 坂西利八郎
陸軍中將

五講演要旨

太平洋會議ニ現レタル各國ノ対日態度

現時ノ日本ヲ各國リ如何ニ注目シテ居ルカヲ申シ上ケル前ニ太平洋會議ト言フモノガ如何ナルモノデアリカヤコソ申シ上ケタイト存ジマス

毎年開カレマス太平洋會議ト言フヒトハ會議以前ニ太平洋調査會ナルモノヲ作り調査ヲ作成シ居イテ各國カ之レニ対シ討議スル會議ヲ云フノデアリマス本年ノ八月十九日ヨリアメリカニ於テニ週間此ノ會議が開カレタノデ在リマス決議等ハ行ハス各國ノ國際間ノ誤解ヲ一掃シ認識ヲ深メルモノデ在リマス本會議ハ今年ヲ以テ六ヶ年目デ在リマシテ最初ノ内ハ各國ノ宗教家或ハ學者ノ會合デアリマシタガ最近ニ至リマシテハ政治家モ加ハリ國際間ノ意義ノ在ル會合

2

ニ変ツテ来タノデ在リマス參加國ハ十二ヶ國デ在リ三百名近クノ人達ガ代表者トシテ集マタノデアリマス日本ヨリハ元外相ノ芳澤謙吉以下十五名ガ参加シ事務員ヲ加ヘ總員廿二名ガ出席シタノデアリマス各國ニ於キマシテモ純政治家ノ歴々タル人物ガ参加シ未ダ曾テ見サル緊張味ガ加ハツタノデ有リマス議案ハニニテ対外關係ト日本ノ經濟進出及支那ノ政治至清上ノ問題ト將來ノ太平洋問題ト如何ニスルヤノ問題ガ中心トナツタノデアリマス之ノ會議ノ性質上ヨリ見テ從來ト著レシノ異ナル莫ハ至清上ノ問題ヲ凡テ政治的ニ論議サレタ莫クアリ初メカヲ終リ迄日本ヲ中心トシテノ議論デアリ會議ノ空氣ハ日本ヲ非難攻撃スル声高ク最近ノ日本

0229

ノ行動ヲ強ク非難シタノデ在リマス

私ハ今日迄多クノ會議ニ代表トシテ派遣サレタル事ハ
幾多在リマスガ最初ヨリ日本ヲ攻撃サレタル會議ハ初
メテテ在リニノ會議ヲ通シテ重要ナルモノヲ一ツ申上げ
御互ニ自覺ヲ深メネハナラヌト存ジマス

第一日目ノ当初ニ吾カ代表ノ大島兼三郎君カ最近
ノ日本ノ至希上ノ現状ト其ノ將來ニ付キ詳細ナル演
説ヲ行ハレタノデアリマスカ其ノ次ニ英國ノアレキサンダーハ
最近ノ日本ノ予算額ヲ政治的ニ述ベ軍事費ノ膨張ハ
其ノ裏面ニ或ル動機カ含コレテ居リ日本ノ總收入財産
ト軍事費トヲ比較スルニセロバセントニ当リ軍需工業
ハ軍部ノ指導ニヨリ製造スル事ヲ述ベタノデアリマス言
葉ハ少イ様デアリマスカ非常ナル日本ノ攻撃ヲ在リシタ

吾々眞ノ日本ノ立場ヲ主張シマレテ之レガ誤解ノ一掃ニ努
メタノデ在リマス即チ軍需工業ハ政府ガ指導シテ居ル
ノテモナク又貿易ノ發展ハ滿洲國成立ノ為メデモナク
明治維新以來吾国民ハ凡ユル犠牲ヲ拂ワテ萬民一致ノ
努力ノ結晶デ在リ凡ユル外国文化ヲ取り入レテ結果
ガ最近ノ産業躍進ヲ来タレ又滿洲國問題ト貿易飛
展トカ一致シタルモノニ非スレテ政府ノ介在ハ絶対ナキ
事ヲ強調シタノデアリマス

昨年カナダニ於キマレテ第五回會議ガ開カレマシタカ其ノ
時ノ中心ハソレアルダンピングデアリ非難ハアリタルモ至希
向頭ヲ中心トスルモノデ在リ英國ノ委員ト一問一答ヲ為
シ日本ハ數字の詳細ヲ説明ヲ試ミ之レガ誤解ヲ一掃
シタルコトガ在リマスガ今回ノ會議デハ左様ナル非難ハナ

クハテノ論義が軍事的行動ト併せて見ルガ如クテ在
リ又日本ノ農民ヲ犠牲ニシテ迄モ貿易ニ於テ注キ居ル
ト迄ノ非難モ在ツタノデアリマス

又米國ノ委員モ日本ノ産業躍進ノ裏ニハ農民ノ犠牲
ノ在ル事ヲ述ベ各国モ之レニ合意シタノテ在リマス
併シ吾國ハ左様ナ事實ハナク昭和六年以來決死的
ニ國民一致産業ノ立直シニ邁進シ今日ノ吾國ノ輸出
貿易ハ各国ノ関稅障壁ノ結果一割四分減ヲ未シテ
居ルノデアリマス

吾等ハ正シ事ヲ信シテ飽ク迄モ難局打開ニ努メテ
ハナラヌト信スルノデアリマス

斯様ニ滿洲問題ト言ヒ支那問題ト言ヒ及テ新聞紙
上ニスラ出テ居ナイ事迄モ述ヘ日本攻撃ニ努メタノテ

在リマスが果シテ今後太平洋問題ハ如何ニナルカラ申
上ゲマスト一言ニシテ申上ケマスナラバ數年前ノ事
情ト今日ノ事情トハ非常ニ違ツテ来テ居ルノテ在リマス
即チ日本ノ貿易ノ驚異的ナル躍進又最近ノ日独防
共協定乃至日伊政治協定ニ在リ今後ノ日本ハ正シキ
ニ從ツテ勇往邁進反省一番大イニ吾國力ノ充實ヲ
圖リ重大ナル平和的的使命ヲ自覚シ列國ヲシテ充分
ナル諒解ヲセシメ充分ナル發展ヲ望ム次第デア
リマス

日支關係ト國民ノ覺悟

坂西科八郎

私ハ永年支那ニ勤勞シテ居リマシタ關係上日支關係
ノ事ニ就テ御話シ申上ケタイト存ジマス

0231

日支關係ハ本来ハ西国共ニ崇ヘルト言フ事ヲ目標トシテ
居リマスガ最近ノ情勢ハ實質ニ面白カラサル現象ヲ呈シ
テ居ルデ在リマス現在日支問題ノ第一線ヲ活躍カトシ居
リマス川越大使トハ古クカラノ友人デ川越大使ノ幸福ヲ祈
リ今大使ノ心中ヲ御想像シテ居ル一人デアリマス
私ハ国民的ナル大使ノ背後ノ應援ガ之ノ際必要ナル事ヲ
痛切ニ感シテ居ルノデアリマス

日本国民トシテノ理想ヲ與論ニ現ハシテ支那ニ当ル必要
ガ在ルト思フノデ在リ即チ日常ノ日本ノ其論ヲ支那ニ
反影サス事デ在リマス今日ノ支那ハ当然ニ日本ノ要求
ヲ受ケ入レネハナラヌ事ヲ内キ入レテ居ナイ現状ヲ見
吾カ日本トシテハ既住ノ支那ヲ見ルト今時ニ將來ノ支
那ヲモ考ヘネバナラヌノデアリマス

私ハ過去二十四年間支那ノ軍事顧問ヲシテ居リマシタ
ガ最初ノ日支關係ハ非常ニ好調デ進ンテ居ッタノデ
在リマス

日露戰爭當時ハ私ハ支那軍ノ一將校デアリマシタ支那
軍ノ全部ハ日本ニ從ツテ全一行動ヲ採ワタノデ在リ凡
スル行動ハ日本ト密ナル連絡ノ下ニ行ハレタノデアリマス
斯様ニ支那ガ何故今日ノ支那ニナッタカ吾々ハ其ノ其
ノ源ヲ知ラネバナラヌト存シマス

米國居住ノ支那人ノ如キハ米支全盟ヲ結ビ日本ニ當レド
造去ツテ居ル狀勢デ在リマス支那ハ明治四十四年ニ清朝
ガ第一革命ガ起リ其ノ革命ノ爲メニ滅ビ其ノ後ハ支那共和國トナリ
又々革命ガ起リ其ノ革命ノ工作ヲ思想ヲ面デヤル下
ニナリ其ノ當時支那ニ共產主義ガ侵入シテ来タノデア

リコス大正九年ニハ支那共産黨員八九〇名位ヲ在リロシヤ
ハ之ノ隙ニ乘リテ多クノ共産党士ヲ支那ニ侵入サセ彼等
ハ自ラ軍事指導員ト迄ニツタノデ在リコスカ彼等ハア
コリニモ支那古来ノ道徳ヲ排シ文化ヲ排撃スル事ヲ主
張シタノテ流石ノ支那モ驚キ一旦入レタ思想デ在リナカラ
又支那人ノ手デ共産主義ヲ排撃シ初メタノデ在リコス
現在ノロシヤノ極東司令官ハ其ノ当時ノ支那軍ノ指導官デ
アリレ人物デアル

歐洲ノ独伊モ一度ハ支那ノ様ニ赤化サレタル国々デ在
リ佛國ノ如キハ現在人民戦線ト言フテ労働者ヲ土台ト
シテノ政治ヲ行ヒツ、在ルガ共産主義ト何等変ラナ
イノチ在ル

国際思想ノ対立ハ歐洲ノミナラズ極東ニ於テモ対立

ヲ来タレ日本ノ北ニハロシヤアリ西ニハ支那四億ノ民衆
ガ在ルガデ在リ之レニ対抗スルノハ帝國ノミデ在ル

然ラハ斯ノ如キ対立ヲ如何ニスルカヲ述ベルナラハ支
那ノ赤化ハ其ノ源ハロシヤデ在リ現在ノ支那ノ最重
要ナル地位ニ在ル人達ハロシヤノ指導ヲ受ケタル者
ノミデ在ルカラ日本トシテ支那ニ対シ日本特種ノ精神
ヲ発輝セネバナラヌ滿洲ニ於テ示レテ居ルガ支那ニハ
未ダ示レテ居ラナイ以後吾々日本人ハ支那四億ノ民
ノ為ニ益友誼ヲ厚クシ東洋平和ノ為メ貢献セ
ネバナラヌ

發信用		執務用	
主信	/		/
附甲			
附乙			
附丙			
附丁			
備考	1.3.3 0: 2-1		

特使便

東京直取安
送案ノ

文書課長	文書課發送	昭和拾貳年壹月拾九日發送済	昭和一機密 第一四號	主 任	歐亞局長
附屬物同封	正校(原稿)	昭和一十二年一月十六日起草	昭和一機密 第一四號	主 任	歐亞局長
	不破(淨書)		昭和一機密 第一四號	主 任	歐亞局長

受 信 人 名	在 任 職 邦
日 本 大 使 館	
講 演 筆 記 送 付 一 件	
記 録 名 件	本邦对内啓答系係雜件
發 信 人 名	歐亞局長 第一課
發 送 日 期	昭和一十二年一月十六日

本信照合票挿入先

昭和十二年一月十四日附公專通 示三五八

申越了承 仍予

外務省

0234 18 132

情報部

第三課

特高松第七五一號

昭和十二年一月十九日

群馬縣知事 君島清吉

東京局

内務大臣 朝惠之輔殿
外務大臣 有田八郎殿
各廳府縣長官 殿

(分類 12.3.0.2-1)

支那事情講演會開催ノ件

管下桐生市教育會並ニ國防義會主催ノ下本月十六日桐生小學校ニ於テ標記講演會ヲ開催シタル狀況左記ノ通有之

右及申(通)報候也

記

一日時一月十六日午後一時三十分開會全四時三十五分終了

一場所 桐生尋常高等小學校講堂

一講師 支那事情研究會主幹 後藤蒼洋

一題 最近支那事情ニ就テ

一出席 男七八。女一一。

要旨

恐レキ勢ヲ以ツテ策ニル 桐生ノ街北、桐生ハ貿易上支那ト密接ナル關係アルコトハ私モ承知シテ居リマス此ノ講演ハ教育會が主催ナリテ之ニ關係アル人達ノミト思ヒ参リ

記録件名

本邦対日啓蒙會開催件

昭和十二年一月十九日

群馬縣知事 君島清吉

0235

マシタ処市民ノ大多数カ出席サレマシタノデ私ハ支那ニ対スル認識ノ全部ヲ申上タイト思マス私ノ講演要旨ハ支那國民性ニ就テ排日ノ今日ニ至リシ情勢ニ就テ支那ニ対スルソゴエト人民戦線ノ活動滿洲國境ニ於ケルソゴエトノ軍備ハ何如等デアリマス

先ツ支那人トハ何如ナル者カト申シマスト支那人ハ生命財產ヲ守ルニミツノ人格ヲ持ツテ居ルノデアリマス

此ノミツハ即言論事物思想ノミツデアリマス支那人ハ此ノミツヲ各別ナル人格トシテ一ツノ身体テ之ヲ使ヒ別々テ居ルニテ有マス彼等ハ平氣テ嘘ヲ言ヒマス世渡ノ上手ナ人程嘘ヲ言フガ上手テ嫁入サセル場合相手方カ如何ナル嘘ヲ言フカヲ調ヘテ嫁ニマルノデアリマス以上ノ如クテ有ルカラ何事ヲモ嘘

ノ言ヒ度ハ放題テス現象ニ判ツテ居ルコトヲモ最近活ハ上嘘ヲ言ヒテ居リマス例ヘハ旅行スル人カアリ其ノ出発時カ決ツテ居テ其ノ圖星ヲ指サレテモ決シテ然ッダトハ言ハズマソウナルカモ知レマセント言ツタ具合テス

彼地ノ童話ニアル百方長者ノ父子カアリ登山シタ処一匹ノ大虎ヲ出タスルト其ノ父カ彼ノ虎ヲ生獲リニスレハ大儲カ出来ルト言マシタ処其ノ子供ハ危険タカラ逃ケマセウト云ツカ父ハ之ニ従ス遂ニ虎ニ吞マレテシマツタ其処テ子供ハ父ノ仇ナリト憤然トシテ虎ヲ切ラントシタニ虎ノ腹ニ居ル父曰ク子供ニ斬日ク待テ若シ此ノ虎ヲオ前カ殺セハ此ノ虎ハ傷ツク故高ク賣クナカラ切ツテハ不可ナイト云ツタトノコトアル斯如ク支那人ハ慾カ深い然シ一度断念スルト再ヒ之ヲ見向モ致シマセヌ一度

彼等ウメーハーズ(黙目)ト口外スレハ其事ハ善悪ニ拘其レテ終息ヲ告ケルニテアリマス

最近起リシ張學良ノクーデター等ハ如實ニ之ヲ物語ツ居リマス即支那人ハ三重人格テアルト云フコトヲ忘レテハ彼等ト交際ハ出来ナイノテ有マス

昔カラ支那ハ文章ノ國テアルト云レマス存現在ノ支那ハ決シ然リナイ彼等ハ独得ノ文章ヲ用ヒテ居ルカラ日本ノ如何ナル漢學者多リトモ支那ノ文章ハ讀メヌ例ハハ汽車零件ト書イテ自動車部分品ト讀ミ汽車ノ事ハ火車ト書ク佛人ノコトヲ法人ソゴエト人ヲ俄人米人ヲ美人独人ヲ徳人ト云フ

右ノ如ク自國テ特別ノ名称ヲツケルノテアル支那人ハ國家ト云フ觀念ヲ無イテハナク國家ヲ嫌氣シテ居ルニテアルニ其國

家ト云フ惠ヲ知ラス國家ヲ創立サレハ其民ハ虐ケラレト思フ居ルカラ國家ノ創立ヲ希マナイニテアル夫ハ過去ノ支那人史カ國民ニソウシク觀念ヲ抱カレメタニテアル現在ノ支那ハ漢民族ノ社会テアルニ國家ヲハナイソレカラ支那ニハ秘密結社ノ非常ニ多イ私知リテ居ル範圍ニ其數ハ一ニ八テ人負ハ六ヲ公人餘モアルテ此ノ結社中ニハ一度刑罰ヲ受ケサレハ入社資格カナイト云フカ有リ之ノ殺人放火誘拐等ヲ請負フニマリマス其故犯罪搜查等ニ非常ニ困難ナノテアリマス又宗教的結社アリマシテ此ノ結社ハ國家ヲ動スカラ持ツテ居リマス私モ此ノ結社ニ入社致シテ居リマス此ノ結社ニ入ツテ居リマスレハ死刑ニ相當スル犯罪ヲ爲シテモ裁判長ク社負テ有ルト無ク非放免トナルノテ有マス日本人ハ滿洲ニ對スル認識ハ相弔アリマスカ支那ニ對

スル認識ハ尙是ニ薄イモテアリマス。私、研究所ヲ所員募集ヲ
致シテタル大學卒業ノ人ハ百人モ来ミシタノテ南京政府ノ首
席ハ何人ナルヤノ問ニ対シ皆蔣介石ト答ヘ林森ナルトヲ答ヘ
タ人カ殆ト有リマセンラシク

之ヲ支那研究ノ受驗受驗者ナニハ敬馬キマシク 現在支那ニ於テ
蔣介石ハ實ニ勢力カ有リタカ之ハ浙江省ニ重キヲ為ス宗朱文ノ
娘宗美齡ヲ夫人ニシテ居ル關係上斯ハ或、関ヨリ軍資金カ出テ
彼ノ軍政部長テアル故彼ノ勢力カアルテアル其、彼ハ親日カ排
日カハ枯ク置キ其ノ政策ハ三民主義テアル即帝國主義ト
倒不平等條約撤廢テアル政府ノ煽動ニ乘ツテ支那民衆ハ排
日ヲ唱ヘ天レヨリ侮日トナリ現在テハ抗日救國トナツテ居ル然
之ハ支那民衆カ思イテハナク南京政府カ思イニシラレウラ之ヲ

何ントカシナケレバ駄目テアル支那民衆東洋軍和確立ヲ為ス日
本ノ友達テアル事ヲ心ビテハナラヌ

現在日本支那カラ馬鹿ニサレテ居ル此ノ結果ハ從來ノ外交ノ失
敗テアル夫レ六種ノ原因カアル其ノ第一ハ歐洲大戰テアル日英同
盟ノ義理カラ日本ハ出兵シ青島ヲ占領シタカ各國ノ言依リ無
條約テ之ヲ還付シ海軍會議テ其ノ率ヲ低メラレ之ニ國民政府ノ
教育カ公然ト排日侮日ヲ教ヘン結果逐ニ抗日救國トナツテ現レタ
ノテアル小學校教科書五十二冊ノ内ニ四百五十七個所ニ侮日抗日
文カ載ツテ居ル

東洋ノスペイン問題トシテ論セサレツ、アル彼ノ紋遠問題ハ
日本トシテハ重大ナル関心ヲ持タネハナラヌ多年支那政府多ク産
ケラレタ蒙古カ獨立指導委員部ヲ創立シ獨立國家カ出来

タテアル蒙古ノ後ニハ滿洲國アリ其北背後ニハ日本カアル彼
傳你義ハ中央政府及支那國民ハ彼ヲ應援シ居ルカ此北背後
ニハソグエトノマルコトハ明テマリ赤化ヲ目的トシテ居ル故我日本
トシテハ放任ニ來ヌテアル

續イテ曰独防共協定ヲ發表サレタカ世界各國之ヲ笑ヒ
又國民一部ニハ無用ノ長物ナリト論スル人カアルカ之ハ誤モ甚
敷キコトニアル國際聯盟退任勅令國際的ノモノテアルカラ國民
ハ絶對支持シナクテハナラヌ

ソ支兩國ノ最近ニ於ル軍備タルヤ實ニ充實ニテ居ル曰支兩國ノ
戰爭スル場合ハ其前ニ於テ極東ノ軍ヲ全滅セシムル必要
カアルヤ滿洲國ハ完全ノ國家テアル故今依ハ北支ニ全カラ
注キ蒙古民族ヲ救ヒテト同時滿洲國ノ安全ヲ計リ保

テ帝國永遠ノ發展ヲ期スル爲メ北支ヲ七心ビテハナラヌテアル
斯クシテコソ東洋平和ノ確立ヲ見經濟ハ安定スルテアル
之コソ日本國民ノ使命ナルコトヲ認識シ實現ヲ期サレハコト
ヲ切望シ私ノ講演ヲ終ルモノテアリマス

情報部 第三課長

昭和十三年八月三日 接受

第一課長

外秘第一七九八號

了

昭和十三年八月一日

第二課長

大阪府知事

池田清

内務大臣 末次信正殿

外務大臣 宇垣一成殿

警視廳 北海道 神奈川 愛知 福井
京都 兵庫 山口 福岡 長崎

各廳府縣長官殿

外交問題講演ニ関スル件

前慶應義塾長

講師 林毅陸

右者客月二十七日大阪市北区堂島堂ビル内慶應俱樂部別館ニ於テ今俱樂部員ニ

對シ左記ノ如キ外交問題ニ関スル講演ヲ爲シタリ御参考迄

右及申(通)報候也

(寫 天満署長)

記

歐洲方面ニ於ケル外交上中心問題ハチエツノ問題ナル然シ之トテ既ニ平和ノ曙光カ現レテ居ル
チエツノハ合キ五百方トチ小國テアルカ其地域ニ非常ニ複雑ナル問題カアル爲ニ各方面ニ色
々ノ問題ヲ授ケ居ル例ハ民族自決主義テアルニ三百三十万ノスイデテン独逸人カアル彼等ハ民族自
決主義依リ騒イテ居ル、独逸ニ於テハ之ヲ援ケントシテ騒イテ居ルテアルカ仰々民族自決主義ハ
パリー平和會議ニ於テ平和ノ根本問題トシテ稱ハラレタモノテアル、チエツコモ元オーストリアハシガ
リーカラ別レテ自決独立シタリテアル、民族自決主義ハ平和會議ニ於テ政界のニ極ハレテ純潔
ナラテナク實ハ食セモノテアツテ聯合國ニ都合ノ良イ所ハ之ヲヤリ然ラサル所ハ之ヲ反スル事ヲヤツテ來

0240

其例ハ独逸トオーストリアヲ分離セテ居ルソレハ佛國カカ最モ強ク働イタリタル故ニ独逸ハ合同
出来ナイ事情ニテ大戦中聯合國側ハ独逸ヲ倒ス近道ハ獨逸ヲ倒ス例ハトテアルト考ヘテ、ソコテ獨逸各
種民族ヲ独立セシムヘク謀略ヲ運ラシテ、民族自決主義モ其レヨリ勢力ヲ得タリタル、即チ独逸ニカラ
勃ノルトニテ爲ニ之ヲ利用サレテ、パレスティン、ユダヤ人問題モ利用サレテ、パレスティンハ英領テ
アルカ(委任統治領)英國ハ現在手ヲ燒イテ居ル、英國ハ大戦中ユダヤ人賦カニ自ラ付テユダヤニ對
シテナシヨナルホトムヲ作リテマルト言明シテ、其レカ今日アラビヤ人トユダヤ人ノ争トヲ發端テアル
之ハ要スルニ英國ノ自業自得テアル、民族自決主義ハ戰爭ニ勝ツタノ手段トシテ扱ハレタカ其レカ今
日歐洲政局ニ禍トナシテ現レテ居ル、チエツコノ存在ハ一ツハ独逸ニツハ獨逸ニツハハンガリーヲ押ヘル爲
テアル、ソコテチエツコノ威可勢カアルモトシタイトニテカ聯合國側、考テアル、チエツコヲ彼カ作
ツタ事ハ實ニ政治的ナ意味カアル

ハフスブルグ確立問題カアツタ、然レシ之問題ハ問題化サレシニテ済マサレタ、ハフスブルグ王朝確
立スレハオーストリアモハンガリーモ此ニ主權トナシ集メテ來ル、オーストリアトハンガリーカ合同スレ
ハチエツコカ困ル其他ニ失地回復ノ問題カ起ルコトカ必定テアル(ハンガリーハ國王ノ子ヲ未ダ居ル)
所カチエコ小國ハ現状維持ニカラ注イテ居タリテアル、其レカ爲メ王朝ハ確立ナカッタ面モ其事
カ今日カラ考ヘテ見ルト、當時獨逸カハンガリート合同シテ居タラ、独逸ト合同スル事ハ出来カ
クテララウ、故ニ今日ヲ見レハ独逸ハ合併ハ獨逸ニハガリー合同ヨリ一層危険性ヲ含ニテ居ルニテアル
民族自決主義ハ國際政治ニ斯ク派手ニ取扱ヘテ居ルカ独逸ハ武威ヲ示シテ獨逸ヲ壓迫シ電光石
火之ヲ合同シテシマツタ、合同シテカラ國民投票ニ移ツタハ、實ニ滑稽ナ問題テアル、所カ其ニ就テ英
ノ態度ハ甚ク笑可シイ、英モ初メハ獨逸ハ合併ニ反對シテ居タリテアル
獨逸合併カ斯モアザヤカニ行ヒタリ、番原因ハ伊太利カ賛成シタカラテアル、然ラハ英ハ何ウシ
タカ、條約ノ手前進ニテ其レヲ止メルトニテ事ハ仕難カツタテアル、英ハ四月十三日ノ國民投票

ニ先立ツト八日前墮於ケル公使館ヲ總領事館トシタ之ニ寒見苦ニ英態度ケル斯ノ人
何爲メノ民族自決テアルカ。英國政治家トシテハ何ウモ斯クナル以上ハ止ラ得ナイト云フ
テ独逸ニ好意ヲ示ス爲メ承認シテアルト思フ。然ルニ其レニ比シテブーデアンノ独逸人カ
自治ヲ求メルト云フ問題ニ於テ英國ノタイムズ紙ハ民族自決ヲ尊重論ヲ説イテ居ル。即チ、彼等
ノ行クキ所ヲ定メルヘテアル是レコソ民族自決主義テアル千九十六年ニ勝手ニエラカツタ。今日、問題ハ
起シ居カツテアラウト論シテ居ル基ヨリタイムズ紙ヲ以テ英國ノ代辯者テアルト断スル事ハ早
計テアルカ。英國トシテ自分ニ都合イイ様何トクニテ独逸ニ満足ヲ與ヘ内滿ニ事ヲ運ヒタイト
云フカ英國ノ腹テアル。英國ハ既ニブーデアン地域ハ特種地域テアルト稱ヘテ居ル様テアル。
英モ此處ニ至レハ民族自決主義ヲ尊重スル氣持カ空境ハレル。チエツコノ問題ニ就イテハ独逸ハ手荒イ
事ハシナイテアラウ。チエツコノ地域ヲ突破スレハ、ガエニア方面ルーマニア方面カ開ケテ居リ更ニ西進

メハ、ウクライナカアル独逸ハウクライナニ目ヲ付ケテ居ル独逸カウクライナニ進出スルニ先ツキ
ツコヲ通ル事ヲ早道テアル。歐洲大戦ノ原因タルセルビアハバルカンニ出ル独逸ノ関門テアラ
斯ク考ヘレハチエツコハ第一ニセルビヤテアル。
如何ニ独逸モチエツコニ對シテハ墮ラ合邦シテ行カナイ。チエツコハ經濟力、武力、工業力ニ富
シテ居ル仲々侮リ難イ國テアル。然シチエツコノ半分ハ既ニ独逸カ衝ヘテ居ル。独逸カチエツコヲ獨
ノ如クスルニトハ差シテ難事テナイ。チエツコハ独逸領若クハ独逸ニ好意ヲ有スル國ニ依ツテ取り圍レ
テ居ル。況ヤ手荒イ問題ヲ起ス事ハ不利テアル。伊太利ニ賛成シナイノテアル。ソレハガエニア流
域ヲハ伊太利カ勢力ノ範圍ニシタイ氣持テアルカラテアル。ソレ佛カ合同テ独逸ニ對スル外ニ英
國ノ問題カアル。独逸ハ未ダ三四年ヲ養フ必要カアルト思ハルカ。独逸ニ英國カ敵ニ迎ル事ハ
何ヨリ困ルノテアル。即チ英國老ビヤト雖モ英國ノ向背ハ重大問題テアル。
英佛間ニハ軍事協定カ出來テ居ルカ。英ハチエツコノ問題ニ對シテ劍ヲ拔ク事ハ出來ナイト

六ツテ居ル然シテ、問題カヲ佛ク戦争ニ捲キ込ムル事迄進展スレハ英ハ佛ヲ援ケルテアラウ
故ニテ、問題ノ爲メ、独リ武力ノ態度ヲ取レハ英ハ佛ヲ援ケル事ハ、嘗テ英聲明ニ依リテ、分
鏡ハレル之ハ、ガレ、誤リヲ再ヒ繰返スヘカラスト、六フ意味ヨリサレタ英國ノ手テアツク、之レハ独逸
トシテモ、慎重ニ考ヘサルヲ得ケイテアル。英國ハ流ク先捨サテ、一方テハ独逸ヲ押ヘ、一方テハ独逸ヲ満
足セシムル様ニ努カシテ居ル其眞意ハ、独逸ヲ手懐ケル策テアル。独逸トシテモ、魚心ニ對スル水心
ハ有ルノテアル。先頃、ヒットラーノ、待從武官カ英國外相トシテ、渡佛前日會シテ居ル等ハ、
英佛提携ノ、デモストレーシヨシニ水ヲ差ス迄モナク、ヒットラーカ如何ニ英國ニ注意ヲ拂ツテ居ルカ
カ判ル。英佛ハ兩國共仲々、綾ノアル行動ヲ取ツテ居ル。何ト云ツテモ、英國ノ向背カ、歐洲ノ動向
ニ重大ナル影射ヲ齎スヘキハ、争ハレナイ。

パリノ英佛政治家ノ會談即チ英國外務大臣及佛ノ首相外ニ三名カ政治問題ヲ協議シ

タト云フガ傳ヲシテ居ル所テハ、西歐羅巴ノ海岸ニ於テ英佛ヲ援助スル其ノ変リ佛ハ英國ノ殖民
地ニ於テ問題ノ起ツタ時英ノ殖民地ニ近接スル佛ノ殖民地ハ、英ノ殖民地確立ノ爲メ援助スルト云フ事ノ
協議カ、アタト聞及ニテ居ル。私ハ之ハ、西砂島、海南島ノ問題ヲ意味シテ居ルノテナイカト思
フ。居ル。英佛ハ日本カ南支那ニ延ビル事ニ非常ナル関心ヲ持ツテ居ル。西砂島ニ佛カアノ様ナ
手ヲヤツタハ、英佛カ話合ヒ上テ日本ニ先チ打ツタモノテアルト思フ。
今マ、佛ハ三ニ三ニ英國ノ援助ヲクシテハ、志ヲ行ナシイ國テアル。佛ハソレ聯ト結シタカ、ソレ聯ト頼ミト
ナシイ。現ニ歐羅巴全体カラ見レハ、ソレ聯トハ除ケ物ニサレテ居ル。佛ハソレ聯トノ關係ヲボカシテ、四國ノ
間相談ヲシタト云フ氣分ヲシテ居ル。
佛ハ東洋方面ニ於テモ、英國ノ便宜ハ大ニ計ラウト考テ居ル事ト想像サレル。其レハ日本カ英
佛一結ニテ、様ニ積極的ニ出ルヲハ、表面ニ現ハレルコト、思フ。

(了)

公 信 案

外 務 省

於準備致置候

リ關係者各位ト共ニ拜聴致スニトニ取計
置候間右以様承願上候尚食事ハ去方
於準備致置候

期具

(日本標準規格B5)

0245

發信用執務用		主信 / /	
附	甲		
	乙		
	丙		
	丁		
備考	2-1		

文書課長

文書課發送 昭和拾陸年貳月 貳日發送済

主 任 歐亞局長

普通事務係 昭陽拾陸年三月壹日 日附 附屬

淨書 (備) 正校(原稿) (淨書) 昭和13年11月30日起草

受 信 人 名 招務者

名 件 川本南洋課長

名 件 録 記 石沢欧亞局長

外 務 省

可長南洋課長講演ニ關スル件

解送過日以電話ニ豫メ同意ノ得置候

貴台南洋以視察談、ハ十二月七日(水曜日)

外務省身ニ會議室ニ於テ午後十二時半日

録

(13.6 4)

0244

1

38

照合票

第 號

記録
件名

昭和十四年六月十九日

發信者 軍令部 江口少佐

受信者

件名 イランイラク旅行誌
(テヘラン事情)

原書ハ左記ニ在リ

記

戸門ノ類ノ項ノ目了 號 本邦人航空関係雜件
(七よかせ号)

(分類 A 2.3.0.2-1)

0246



送	送	送	送	送
送	送	送	送	送
送	送	送	送	送
送	送	送	送	送
送	送	送	送	送

(分類 A3.3.1. 2-1)

電 信 案	外 務 省	指 向 の 左 ス ニ シ テ 協 会 ニ 行 テ 業 行 配 布 セ ル	細 則 協 会 業 行 登 録 課 漢 ノ 編 向 ノ 取 扱 ハ 本 省 ノ	貴 地 台 振 ノ 金 子 ハ 左 記 振 傳 ハ マ リ タ シ	第 一 〇 三 號	電 送 第 16398 號	主 管 三 浦 長 官
						昭 和 十 四 年 七 月 一 日 起 算	電 信 課 長 三 浦 長 官
						名 宛 花 馬 尼 利 木 原 總 領 事 代 理	主 任 三 浦 長 官
						名 宛 有 田 大 臣	發 電 三 浦 長 官
						記 録 件 名 本 邦 封 内 終 極 開 序 雜 件 講 演 開 序	昭 和 十 四 年 七 月 一 日 起 算

(日本標準規格B5) 0247

1 36



本信寫挿入先 門類項目 660117		電送第 16398 號 昭和 14 年 7 月 1 日 午後 7 時 1 分 發 20 件		主管 主任
貴地台板、金子へ在記御傳へアリタシ 金子石南支館 沼原第2回之件		花馬尼利 木原総領事代理	發 有田大臣	
録件名 本邦封内陸農園係 雜件講演関係		第 103 號 昭和十四年七月一日 起 1 36		

(日本標準規格 B5)

0247

REEL No. A-0357

アジア歴史資料センター

分類
先送書

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

大臣
官

電信課長

(分類) 3.3.0.2-1

昭和14 三七六九三 (暗) 華府 十月二十五日前發 情、米
本省 二十五日後着

野村外務大臣
堀内大使

第一二九九號 (極秘)
往電第一二九七號ニ關シ
消息通ノ言ニ依レハ本件APハ同社華府支局長カ直接國務省當局ヨ
リ聞キタル所ヲ土臺トシ打電セルモノニ相違ナシトノ事ナリ爲念
(了)

0250

外務省

先送書

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

大臣
官

電信課長

(分類) 3.3.0.2-1

昭和14 三七六六七 略 華府 十月二十四日後發 情、米
本省 二十五日前着

野村外務大臣
堀内大使

第一二九七號
二十四日紐育NBCヨリJOAKノ希望ニ依ルトテ最近國際情勢ニ
關スル本使ノ日本向邦語放送(約十分間)ヲ依頼越シタルカJOA
Kヨリ何等依頼ナキニ付爲念御取調御回電ヲ請フ(了)

0249

外務省

野村外務大臣
堀内大使

秘書官

祝電案

南洋局長 五

南洋局長 才二課長

南洋局長 才二課

十月二十七日

午後三時半

発電

ヤダ

合箱 19.3.0.2-1

					今回貴聯盟講演大會ノ開催セラルルニ當リ祝意ヲ 表スルト共ニ邦家ノ為メ所期自的達成ニ益々奮闘 セラレシコトヲ祈ル		外務大臣 松岡洋右		亞洲青年聯盟 (本所公金先見取)			
--	--	--	--	--	---	--	-----------	--	---------------------	--	--	--

外務省

(日本標準規格 B5)

0251

REEL No. A-0357

0250

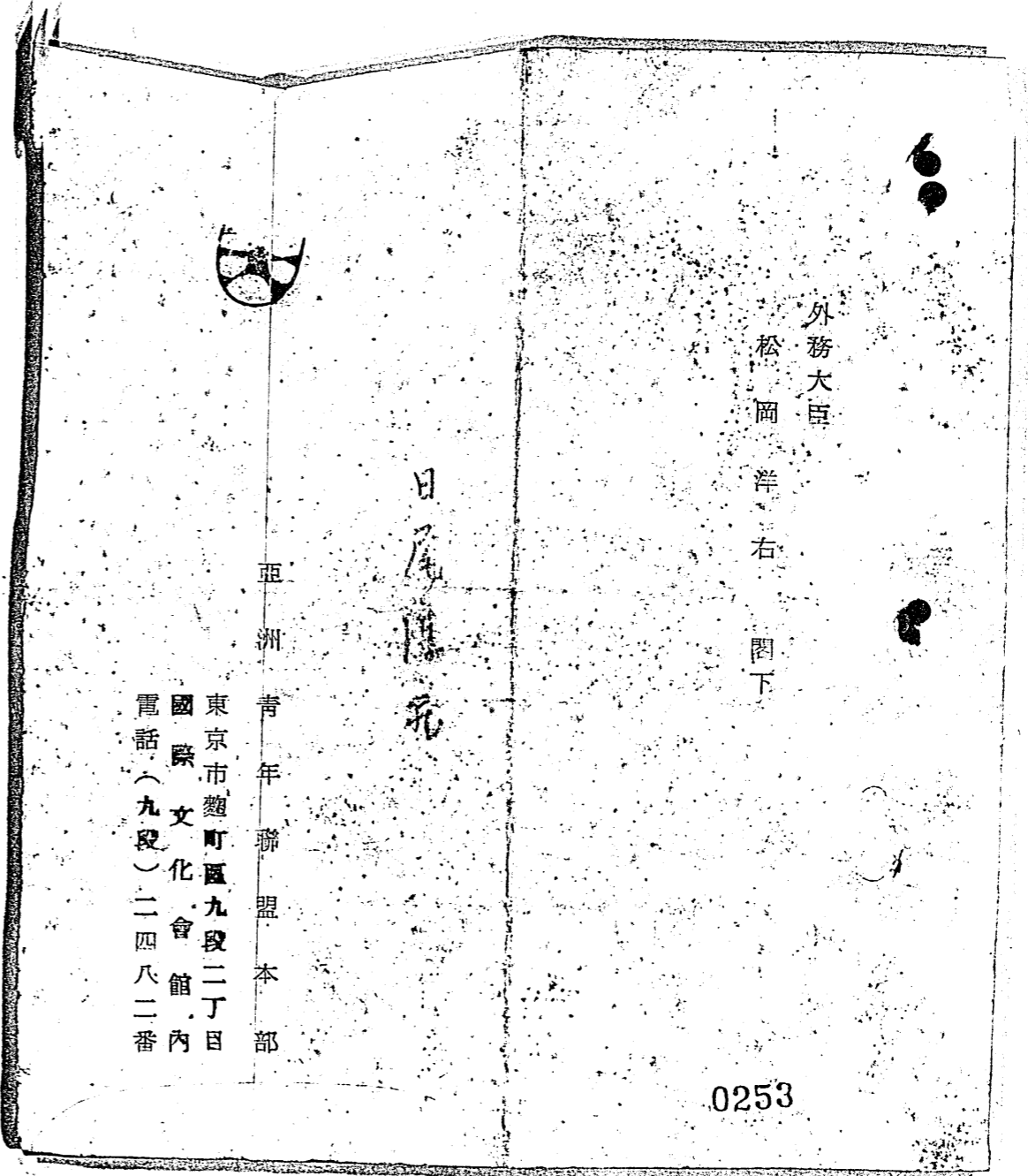
アジア歴史資料センター

U
組織部長
亞洲青年聯盟
青木富雄
0252
本館 東京市麹町區九段二丁目
國際文化會館内
電話九段四二四八二番

REEL No. A-0357

0257

アジア歴史資料センター



外務大臣

松岡洋右閣下

日尾博光

亞洲青年聯盟本部

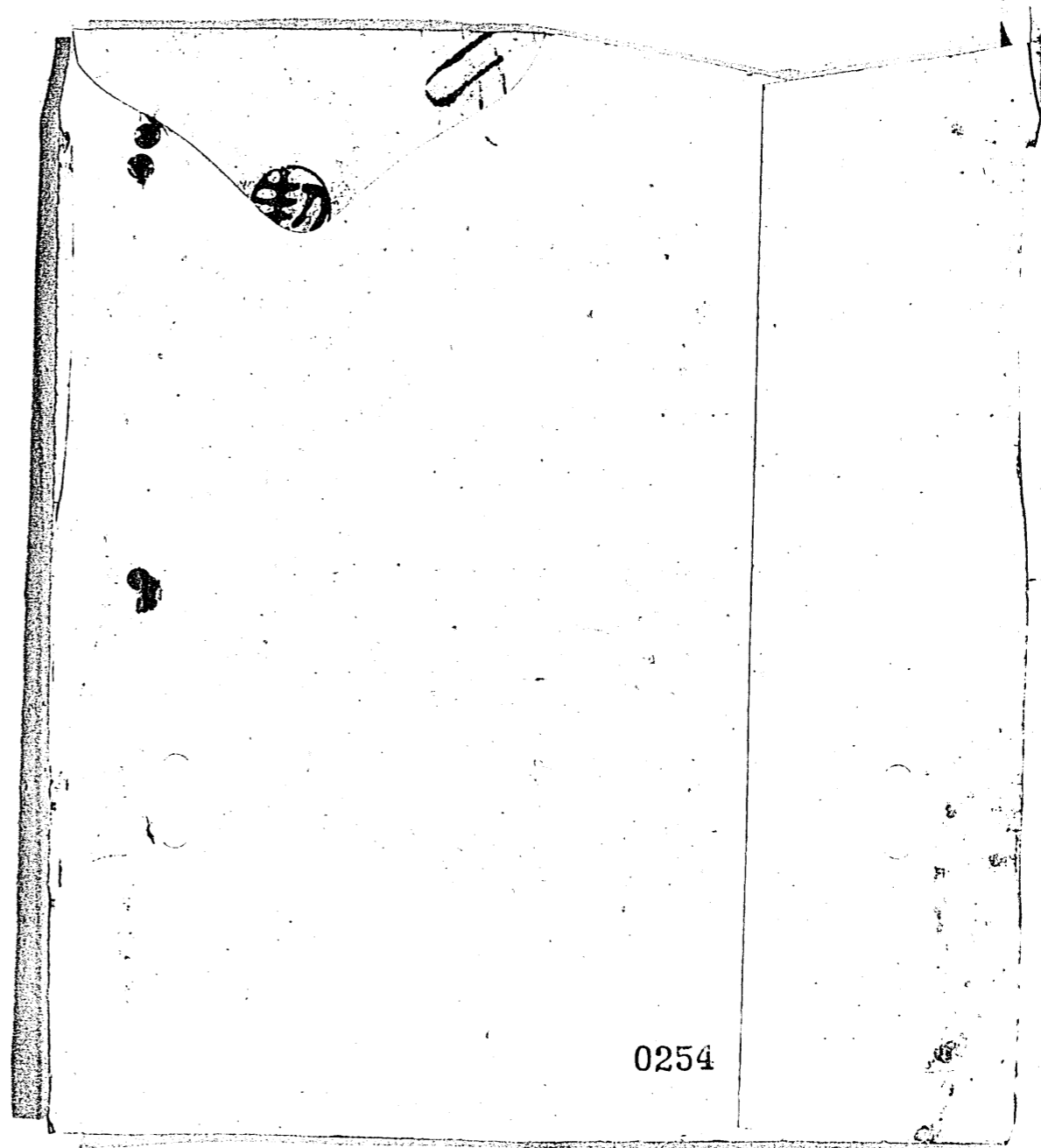
東京市麴町區九段二丁目
國際文化會館內
電話(九段)二四八二番

0253

REEL No. A-0357



アジア歴史資料センター



0254

REEL No. A-0357



アジア歴史資料センター

振
務
下
閣
下
松
岡
洋
右
閣
下

肅啓

閣下益々御清穆に爲被涉候段邦家のために慶賀奉り候
却説 南方躍進は肇國の大精神たる八紘一宇の礎石と存
ぜられ其の産業戦士を養成すべく今回福岡理事長を盟主
とする該方面に活躍せる拾有會社をコンツエルンとして
是を産業部として亞洲青年聯盟を組織致し候
就而來る拾壹月貳拾七日午后五時より本所公會堂に於て
東都に於ける 南方躍進の雄叫びを致すことに相成申候
願くは本聯盟産業報國の衷情を御洞察被遊祝詞亦は祝電
を賜り度く聯盟員拜趨致させ候に付御引見賜り度く此段
懇願奉り候
敬 白

昭和拾五年拾壹月貳拾五日

亞洲青年聯盟

相談役 入江種矩
相談役 鬼倉重次郎

外務大臣

松岡洋右閣下

0255

電信課長(詢)

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

(分類 1330.2-)

昭和16

三〇八

平

仙臺 本省

一月七日

前發

七日前着

調

情報部長

東北帝大總長

十二月十三日附庶第九七九號ヲ以テ國民政府林宣傳部長招聘ノ件
ニ付文化部長宛依頼ノ處御都合如何至急何分ノ御回報相煩度シ

件本和封内は急ぎ次第に
消し戻す候

外務省

0258

